

本山寺と池田裕計

題目

- ① 池田と本山寺のつながりはTKKが全てです。
- ② TKKとの係わりで本山寺周辺の自然を満喫しました。
- ③ 池田と本山寺との実質的なつながりは極最近の事です。
- ④ 本山寺自然環境保全指定地域を考える協議会結成のきっかけ。

まず、① 池田と本山寺とのつながりはTKKとのつながりが全てです。

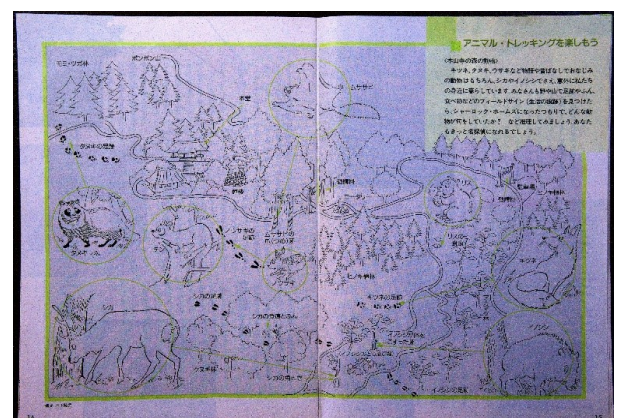
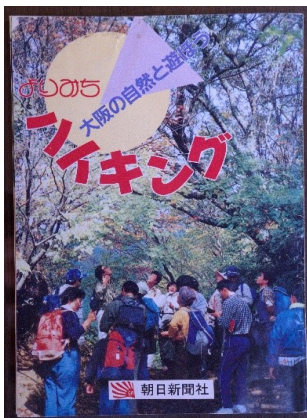
TKKとのつながりは現在も年1回で行われている里山一斉調査です。2021年で第39回を迎えていますが発足当時は里山動物一斉調査で、その第2回からです。

第1回目は自分のフィールドの茨木市忍頂寺を担当しましたが第2回目の準備会議の折、何故か御大(木下睦夫当時当協会の副会長)池田を高槻市の担当を指名しました。それ以来、高槻市原を中心に第15回目まで担当しました。その間TKK主催のヒグラシ調査やサンショウウオ卵塊調査、ヒガンバナの観察会などに参加し、動植物の形態や生態又、それを取り巻く生態系等の勉強をさせてもらいました。

ヒグラシ調査のエンブレム



常に本山寺をイニシャリティに観察を重ね、その成果を1990年朝日新聞発行の冊子[「よりみちハイク」大阪のしぜんと遊ぼう]の神峰寺から本山寺コースを担当しました。1989年11月病院の公衆電話でこの冊子の最終校正をしていた時看護師さんが「貴方は明日大きな手術があるのよ!、いい加減にして早く寝なさい!!」と叱責された。今、思うと、消灯時間後と大きな声が迷惑であったのであろう、謝罪と反省である。

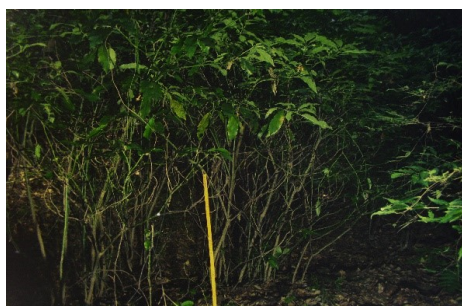
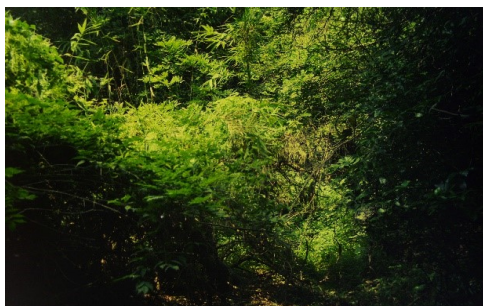


② T K Kとの係わりで本山寺周辺の自然を満喫しました。

資料や原稿も処分し投稿時期は不明確であるが、池田自身も本山寺周辺の谷筋と一つのアオキ群落（10m×10m）で調査を続け、1995年頃、当協会誌「都市と自然」ニホンジカのアオキへの偏食性について報告したことがある。偏食性とは、シカの嗜好性植物が混生してる地点でアオキのみを食べる性質を偏食と定義しての報告である。

又、本山寺周辺のシカのアオキ食によるアオキの衰退速度と、本山寺の北方、京都市立大原野森林公園内のシカのアオキ食によるアオキの衰退速度を調査し、アオキの衰退速度が本山寺周辺のアオキ衰退速度より早いことを現地の自然保護団体の会報誌に報告したこともある。

1988年8月28日 高槻市原 ヘビ谷のアオキ群落



1993年8月27日 高槻市原 ヘビ谷のアオキ群落



③ 池田と本山寺との実質的なつながりは極最近の事です。

池田が本山寺と少し近づけた、ことの一つに大峯山拝登山がある。池田が2000年、転職した職場で5月3日に大峯山拝登山があり、信仰の強制が無く、得意先のお付き合いで参加したのが起因である。それは3年で中止になった。数年後、本山寺でも7月に大峯山拝登山があることを知り、参加した。以前の大峯山拝登山は護摩焚きと、のんびりした登山であった。しかし、本山寺のそれは夏でも水温が5°Cの池に浸かる水行、と滝行と午前3時出発の参拝登山の厳しいものであった。宗教の強制が無いのを良いことに、主催者の寛大さに甘え、心苦しさを感じつつも、物見遊山な参加であった。目的は大峯山の自然とその変化を観ることにあった。5月の参拝道にはハシリドコロが咲いていた。山頂には残雪が多く避けて下山した。7月には花期は済んでいたが、ヤハズアジサイがあり、オオヤマレンゲは本坊の近くで守られて咲いているのが痛ましく感じた。頂上部では昔の面影は無く、笹原になっていた。シカがササを食べながら参拝者を眺めていた。登山道でも年々、自然の荒廃が散見された。しかし、美味しい精進料理と精進明け料理には感謝である。本山寺ではササも生えていない。

④ 本山寺自然環境保全指定地域を考える協議会結成のきっかけ。

20数年ぶりに当協会のナチュラルリスト講座で本山寺周辺と本堂裏のモミ、ツガ、アカガシ林を見た時である。林床の荒廃が激しく、表土流出の発生している所もあり、何とかしなくてはと感じたからである。

1989年5月15日 勧請掛け 南→北	1989年5月15日 本堂裏のモミ、ツガ、アカガシ林	1989年5月15日 本堂裏→東海自然歩道への路
------------------------	-------------------------------	-----------------------------

